小銅鐸出土地名表（府県コード順／出土年順）

２０１５．１１．０１．
どんたく

【凡例】　［地名］欄の（　）内は旧称。＜　＞内は遺跡名詳細。
［高さ］欄の＜　＞内の数字は復元高。
［松井分類］は、松井一明氏による小銅鐸分類型式。

Ⅰ　存在が確かな小銅鐸（所在不明分を含む）

No	府県名	遺跡名	地　名	号	出土年	高さ(cm)	鐸身文様	鰭	内面突帯	舌	廃絶時期	所蔵・保管	出　典	備　考	松井分類	参　考
1	栃木	田間	小山市田間小字西裏958		1965	10.3	無文	有				東博38324	[2文献]参照	表面採取。付近に土師器破片など散布。鈕の両面に半円形の細い隆帯が鋳出されている。鈕孔上方に紐ずれのような磨滅痕。	６ａｂ	
2	群馬	中溝Ⅱ	太田市新田小金井町（新田郡新田町 小金井字中溝）		1992	4.2 現高	無文	有			古墳前期	太田市教委	[2文献]参照	小型銅鐸。Ｂ区2号竪穴式住居跡床面直上。鈕断面扁平。鈕及び鐸身下半部の３分の２欠損。	６ａ	
3	千葉	天神台	市原市村上（大字村上字天神台）		1982	6.8	無文	無	無		古墳前期	市原市教委	[2文献]参照	1035住居跡から出土。鈕内孔頂に磨滅痕。裾部破損。	４Ｂａ	
4	千葉	川焼台	市原市草刈（字川焼台1692-2）	1	1983	12.25	袈裟襷 綾杉文	有	無		弥生後期	千葉県教育振興財団文化財センター	[2文献]参照	小型銅鐸。草刈32号墳周溝下の竪穴住居跡。鐸身・鰭・鈕に文様（袈裟襷文、綾杉文、隆起線文）。朱付着。管玉伴出。文献欄の文献では時期を「弥末～古前」としている.	６ａ	
5	千葉	川焼台	市原市草刈（字川焼台1692-2）	2	1985	9.9	無文	有	無		弥生末～古墳前期	千葉県教育振興財団文化財センター	[2文献]参照	小型銅鐸。278号竪穴住居跡。鈕に隆起線文。管玉伴出。１号鐸の約100m東から出土。文献欄の文献では時期を「古前」としているが、その後の調査でこれを修正。	６ａ	
6	千葉	文脇	袖ケ浦市野里（君津郡袖ヶ浦町）		1988	10.8	無文	無	有		弥生終末期～古墳初頭	袖ケ浦市教委	[2文献]参照	土壙墓（木棺直葬と推定）。	４Ａａ	

No	府県名	遺跡名	地　名	号	出土年	高さ(cm)	鐸身文様	鰭	内面突帯	舌	廃絶時期	所蔵・保管	出　典	備　考	松井分類	参　考
7	千葉	草刈Ｈ区	市原市草刈（字下切付ほか）〈草刈遺跡Ｈ区〉		1989	5.93	無文	無			古墳前期	千葉県教育振興財団文化財センター	[2文献]参照	川焼台小銅鐸出土地点の北東約１ｋｍから出土。方墳（397号墳）周溝内の埋葬施設。もともと鋳造時から鈕がない。赤色顔料の入った壺下半部伴出。	５ｂ	
8	千葉	草刈Ｉ区	市原市草刈〈草刈遺跡Ｉ区〉		1989	4.95 現高	無文	—			古墳前期推定	千葉県教育振興財団文化財センター	『千葉紀要17』3	11.8g。竪穴住居。破片	５ｂ？	
9	千葉	大井戸八木	君津市大井戸（字台山1,380）		1990	9.45	無文	無	有		弥生後期	千葉県教育振興財団文化財センター	[2文献]参照	001号土壙。４連の銅釧と、鉄石英製の管玉を含む多数の玉類を伴出。この鉄石英は弥生後期にしか作られていない新潟・佐渡産。	４Ａａ	
10	千葉	中越	木更津市大久保（字中越他）		1994	6.35	無文	無	有		古墳前期	千葉県教育振興財団文化財センター	[2文献]参照	古墳前期の竪穴住居跡（SI-19）の覆土最上層より出土。鐸身内に楕円形の小礫。	４Ａｂ	
11	千葉	水神下	袖ケ浦市奈良輪字水神下		2012	6.26	無文	無	有	無	古墳時代	袖ケ浦市教委	[2文献]参照	小河川跡から、小型仿製鏡（重圏文鏡。直径6.3～6.4cm）および石製垂飾品（5.36×4.31cm）とともに出土。	４Ａａ	小銅鐸の裾部の幅は4.05cm。重量33.98g。松井分類は発掘調査報告書による。
12	東京	高田馬場３丁目	新宿区高田馬場３丁目		1991	5.8	無文	無	有		弥生後期～古墳前期	新宿歴史博物館	『富樫徳澤』32	住居跡。床面直上部。吊り下げられていたものが落下。	４Ａｂ	
13	東京	中郷	八王子市長房町		1997	3.35 現高	無文	無			弥生末～古墳初	八王子市郷土資料館	『発掘96-98』p91	弥生終末～古墳初頭と考えられる竪穴住居跡から出土。鈕と裾の一部を欠く。	４Ａａ	
14	神奈川	(海老名)本郷	海老名市本郷（高座郡海老名町本郷字本宿）		1971	7.9	無文	無	有	無	古墳前期	海老名市教委	[2文献]参照	五領期の２５号住居跡。鈕部分と鐸身破片が1.1m離れて出土。小型粗造手こね土器伴出。	４Ａａ	五領式土器：関東南部の古墳時代前期の土師器型式。
15	神奈川	内沢	平塚市広川・公所遺跡群内沢遺跡		1998	10.0	無文	有			古墳前期	平塚市教委（広川・公所遺跡発掘調査団）	『アサヒ99』p54	古墳前期集落の溝跡から土器片とともに出土。銅部分が二つに分かれ、約２ｍ離れて発見。	６ａ	

No	府県名	遺跡名	地　名	号	出土年	高さ(cm)	鐸身文様	鰭	内面突帯	舌	廃絶時期	所蔵・保管	出　典	備　考	松井分類	参　考
16	神奈川	河原口坊中	海老名市河原口158-2		2007	7.9	無文	無	有	不明※	弥生後期	かながわ考古学財団	かながわ考古学財団ＨＰ	※小銅鐸内部に小礫が固着。（舌の可能性も考えられるが不明）	４Ａａ	松井分類は松井一明氏のご教示による。
17	石川	藤江Ｂ	金沢市藤江北／藤江南		1995	7.0約現高	無文	無			古墳中期(5世紀)	石川県埋蔵文化財センター	[2文献]参照	大溝。身の高さ6.2cm以上。遺存重量82.7g。鈕の殆ど及び鐸身下半を大きく欠損。東へ約30mの地点から1996年に中細形銅剣出土。	２ａ？	
18	福井	瓜生助	越前市瓜生町（武生市瓜生町）		2002	6　約	無文	無	無	無	弥生後期	越前市教委	[2文献]参照	６号竪穴式住居。鰭・鈕がなく、鐸身のみ。形は千葉県草刈遺跡Ｈ区出土例に似ている。	５ｂ？	
19	静岡	船津陣ケ沢	富士市船津（駿河国駿東郡浮島村大字船津小字陣ケ澤）		1929	6.0	無文	無			古墳？	後藤信平氏旧蔵。亡失	[2文献]参照	小円墳の竪穴式石室内から鉄鏃・刀子・三輪玉形金具などと共に出土と伝える。身高4.15。	４Ａｂ	
20	静岡	閑峯	沼津市井出（駿東郡浮島村大字東井出字閑峯）		1932年より前	7.8	無文	無	無			東博21499	[2文献]参照	段状の丘陵の地下１尺から、耕作中偶然発掘。付近の畠地一帯は弥生式土器散布地。鐸身と裾部に型持孔。地名「開峯」は誤り。現在東博では「閑峯」としている。	４Ａａ	角川・日本地名大辞典22静岡県p1460：沼津市井出の小字名として閑峯（ｶﾝﾎﾟｳ）はあり、開峯はない。
21	静岡	有東（有東第一）	静岡市駿河区有東（静岡市大谷）		1948	6.44	無文	無	無	無	弥生中期後半？	個人（静岡市教委）	[2文献]参照	松下幹雄氏が表面採集。有東式土器に伴うものであるとする可能性が強い。	４Ａｂ	有東式土器は弥生中期後半（大塚・戸沢『最新日本考古学辞典』）
22	静岡	伊場	浜松市中区東伊場		1953?	7.8	無文	不明※	無	無	弥生後期	浜松市博物館	[2文献]参照	1953～55頃浜松市在住の個人が発掘。2004年9月浜松市博物館に寄贈。※鰭かバリか判然としない。	２ｂ	
23	静岡	愛野向山Ⅱ	袋井市愛野（字寺山）		1985	7.5<7.7>	無文	無	無	麻紐付の銅鏃	弥生後期後葉	袋井市教委（浅羽郷土資料館）	[2文献]参照	木棺墓近くの表土層直下。棺上祭祀具の可能性。鐸身内に紐付き銅鏃。	４Ａａ	
24	静岡	青木原Ⅱ	三島市南二日町５２６－４		2009	12.6	裾部に綾杉文１条	有	有	無	弥生後期～古墳前期	静岡県埋蔵文化財センター	[2文献]参照	滞水している河岸部に埋没。検出時には金属光沢あり。北東に５．７ｍ離れた同層位の地点から銅釧の再加工品出土。		近似例に千葉・川焼台１号。

No	府県名	遺跡名	地　名	号	出土年	高さ(cm)	鐸身文様	鰭	内面突帯	舌	廃絶時期	所蔵・保管	出　典	備　考	松井分類	参　考
25	愛知	余野神明下	丹羽郡大口町余野（神明下81）		1976	5.6	無文	無	有		弥生後期	個人	『銅鐸集成』p886	地下約90cmより出土。	４Ａａ	
26	三重	草山	松阪市下村町（字草山）		1984年度下期	5.4現高	無文	無	無	銅鏃	弥生後期	松阪市文化財センター（文化財センターはにわ館）	[2文献]参照	奈良時代の井戸の傍の溝。鐸身の２／３欠損。銅鏃１点伴出。奈良時代に使用された溝が埋まる過程で混入か？	４Ａａ	草山遺跡は久保町／下村町にまたがるが、小銅鐸出土地点は松坂市下村町字草山。
27	三重	白浜	鳥羽市浦村町（字白浜）		1987	12.0	無文	有			弥生中期～後期	海の博物館	『発掘83-87』p115	弥生後期の土器、骨角器、貝類と伴出。上部３カ所に飾耳（１カ所は欠落）。	２ａ	（財）東海水産科学協会「海の博物館」（鳥羽市浦村町1731-68）
28	滋賀	志那	草津市志那町（栗太郡常盤村大字志那の北方、同中村地先南方の湖岸）		1932～33	12.7(4寸2分)	４区袈裟襷	有	有			個人蔵。（京都大学総合博物館）　重要美術品。	[2文献]参照	湖から砂利採掘中に発見。出土地はこれを譲り受けた津田願成氏が発見者から聞いたもの。両鰭から鈕にわたって複合鋸歯文。文様磨滅。	２ｂ	野洲市銅鐸博物館にレプリカ。
29	滋賀	松原内湖	彦根市松原町矢倉川口遺跡		1985	5.5	無文	無	無	銅鏃	弥生後期	県立安土城考古博　・野洲市銅鐸博物館にレプリカ。	『銅鐸集成』p893	弥生後期土器層地下１ｍより出土。後期土器伴出。銅鏃伴出。	４Ｂａ	
30	滋賀	下鈎	栗東市下鈎（栗太郡栗東町）		1998	3.4	無文	無	無	無	弥生中期後半～後期	県立安土城考古博	[2文献]参照	「導水施設」状遺構に隣接する弥生中期後半頃の溝。	４Ｂａ	
31	大阪	寛弘寺	南河内郡河南町寛弘寺／神山		1986年度	6.1現高	無文	無	有	無	弥生後期	大阪府教委	[2文献]参照	集落内最大規模の竪穴住居（径約11ｍ）の埋土中。鈕殆ど欠損。	３ｂ	
32	大阪	(柏原)本郷	柏原市本郷５丁目217-1他２筆		1991	10.5	無文	無	有	無	弥生後期	柏原市教委（柏原市立歴史資料館）	[2文献]参照	溝12に廃棄されたもの。鈕内面の吊り下げ部付近及び内面突帯中央部が摩耗。	１Ｃａ	

No	府県名	遺跡名	地　名	号	出土年	高さ(cm)	鐸身文様	鰭	内面突帯	舌	廃絶時期	所蔵・保管	出　典	備　考	松井分類	参　考
33	大阪	上フジ	岸和田市三田町		1991年度	3.5<4.5>程度	無文	無	不明	無	弥生中期～後期	大阪府文化財センター（南部調査事務所）	[2文献]参照	弥生後期の高地性集落中の８角形の焼失竪穴住居跡（２-ＯＤ）。５０個以上の細片に分かれて出土。考古地磁気推定年代は200±75 A.D.（弥生中頃～後半）。２-ＯＤのＣ14年代は４世紀前半（ただし試料が少ないため不確実）。他の焼失住居３戸のＣ14年代は３世紀前半。	４Ａａ	
34	大阪	東奈良	茨木市東奈良３丁目		1999	14.2	円形文・綾杉文・三角文	無	有	銅	弥生中期後半	茨木市立文化財資料館	[2文献]参照	銅鐸：750ｇ。銅舌：8.3ｃｍ，750ｇ。弥生中期後半の溝から出土。内面に摩耗痕。	１Ａｂ	
35	兵庫	高篠谷ノ郷	三木市細川町高篠(谷ノ郷)		1988	6.0現高	無文	無	有	無	不明※	三木市教委	[2文献]参照	※平安時代後期の溝。鈕の上部と身の一部欠損。内面突帯磨滅。弥生時代に使われた小銅鐸が平安時代に見つかり、そして溝に捨てられたものと解釈。	３ａ	
36	兵庫	月若	芦屋市月若町66番3,4；69番3 <月若遺跡第96地点>		2008	6.6現高	無文	無	無	無	古墳初頭～古墳前期	芦屋市教委	[2文献]参照	高さは仮実測値。		古墳初頭（西摂４様式）～古墳前期（布留式新段階）
37	鳥取	東郷北福	東伯郡湯梨浜町大字北福(東伯郡東郷町大字北福字北山)		1930～1931	9.25	無文	無				個人蔵（湯梨浜町教委）	[2文献]参照	丘陵上から単独出土。小林虎蔵氏発見。	３ｂ	長瀬高浜の文献『考雑』68-1（文責：清水真一氏）に「北福小銅鐸」とある。
38	鳥取	長瀬高浜	東伯郡湯梨浜町はわい長瀬(東伯郡羽合町大字長瀬小字高浜)		1981	8.8	無文	有	有	(石)	古墳前期末葉	湯梨浜町羽合歴史民俗資料館	[2文献]参照	竪穴住居跡の上部。鈕に連続渦文及びＳ字状渦文。内面にねじれた繊維（舌吊り下げ紐？）。200ｍ離れて弥生前期の土器とともに舌状石製品出土。	２ａ	

No	府県名	遺跡名	地　名	号	出土年	高さ(cm)	鐸身文様	鰭	内面突帯	舌	廃絶時期	所蔵・保管	出　典	備　考	松井分類	参　考
39	岡山	下市瀬	真庭市下市瀬（真庭郡落合町大字下市瀬池尻）		1973	6.6	無文	有	無	無	弥生後期終末	真庭市教委	[2文献]参照	小型銅鐸。水路に近い奈良時代の井戸枠の傍から出土。発見時は赤銅色。井戸枠内外から出土した各種土器のうち、甕以外は約半数が丹塗り。内面突帯なし。身最下部内側が僅かなふくらみ。	２ａ	新東論文では弥生後期終末の井戸とされていたものが、現在では奈良時代の井戸と考えられている。ただし出土土器は弥生後期終末のもの。（真庭市教委・池上博氏のご教示による。）
40	岡山	足守川矢部南向	倉敷市矢部南向		1987	6.42	無文	無	無	無	弥生後期後半	岡山県古代吉備文化財センター	[2文献]参照	竪穴住居址床面下の円形小土壙。斜め下方に傾きながらも鈕を垂直に立てた状態で検出。僅かながら炭粒あり。	３ｂ	
41	岡山	横寺	総社市新本		1993	5.50	無文	無	無	不明	弥生	総社市教委（埋蔵文化財学習の館）	『富樫徳澤』13	住居跡。床面直上部	３ｂ	
42	徳島	伝江原	伝　美馬市脇町付近（伝　美馬郡江原付近）			6.2	無文	無	無			森敬介氏旧蔵。東博39037	[2文献]参照	森敬介氏は別に18.2ｃｍ４区袈裟襷文銅鐸のあったことを伝える。	３ａ	
43	香川	弘田川西岸	善通寺市仙遊町		1992	4.0	無文(不明)	無	不明	無(不明)	弥生後期前半	香川県埋蔵文化財センター	『富樫徳澤』16	黒褐色包含層	３ｂ？	
44	福岡	大南	春日市大谷２丁目（筑紫郡春日町大字小倉字大南）		1960	9.4 〈10.1〉	有文。突線で一種の袈裟襷文を表現	無	有		弥生後期	九州大学考古学研究室	『起源論』6	集落を囲むＶ字溝。銅鐸を模した小銅鐸	３ｂ	
45	福岡	浦志	前原市浦志（糸島郡前原町浦志）〈浦志遺跡Ａ地区〉		1983	6.55	無文	無	無	銅	弥生後期後半～終末	伊都国歴史博物館	[2文献]参照	溝状遺構。鐸身両面中央部に細長い型持孔。裾に僅かなふくらみがある。	１Ｂｂ	
46	福岡	今宿五郎江	福岡市西区今宿町	1	1985	13.5	無文	無	無	無	弥生中期末～後期初頭	福岡市教委	[2文献]参照	２次調査で溝内から出土。舞の内面全面と身の内外面の一部に赤色顔料付着。共伴土器の80%が丹塗り土器。鈕の上端部３箇所に突起。ただし、飾耳とは考え難い。	１Ｃｂ	

No	府県名	遺跡名	地　名	号	出土年	高さ(cm)	鐸身文様	鰭	内面突帯	舌	廃絶時期	所蔵・保管	出　典	備　考	松井分類	参　考
47	福岡	今宿五郎江	福岡市西区今宿町	2	2006	6.6 現高	無文	無	無	無	弥生後期～終末期	福岡市教委	[2文献]参照	１１次調査で投棄土器とともに出土。朝鮮式の可能性。		
48	福岡	原田	嘉麻市馬見（嘉穂郡嘉穂町大字馬見字原田）		1986	5.5	裾部に斜格子文帯	無	無	銅	弥生中期	嘉麻市教委	[2文献]参照	木棺墓と思われる遺構中。遺構北辺は弥生中期前半頃の甕棺墓に切られている。青銅製舌１個、管玉約20個を伴出。	１Ｂｂ	
49	福岡	板付	福岡市博多区板付　２丁目		1989	7.6	無文	無	無	銅 5.5	弥生後期	福岡市教委	『発掘88-90』p120及び[2文献]参照	長方形住居内のピットに、銅鐸と同じく鰭に相当する部分を上下にして横たえて埋納。身の中に土をつめて埋納。身に型持孔はない。	１Ｂｂ	
50	福岡	井尻B	福岡市南区井尻		2003	5.3	無文	無	無	無	弥生後期	福岡市教委	『列島2003』p.84及び[2文献]参照	竪穴住居間のベルト部分から出土。重さ12.9gr	１Ｂａ	
51	福岡	元岡･桑原遺跡群	福岡市西区大字元岡	1	2005	6.5	無文	無	無	無	弥生後期後半	福岡市教委	[2文献]参照	1号鐸と2号鐸は８ｍの間隔で出土。	１Ｂａ	松井分類は松井一明氏のご教示による。
52	福岡	元岡･桑原遺跡群	福岡市西区大字元岡	2	2005	7.0	無文	無	無	無	弥生後期後半	福岡市教委	[2文献]参照		１Ｂａ	松井分類は松井一明氏のご教示による。
53	福岡	立明寺地区	筑紫野市立明寺<立明寺地区遺跡Ｂ地点>		2007	4.0 <4.5>	無文	無	無	無	弥生後期後半	筑紫野市教委	[2文献]参照		１Ｂ	松井分類は松井一明氏のご教示による。
54	福岡	比恵遺跡群	福岡市博多区博多駅南　５丁目		2012	5.3 <5.4>	無文	無	無	無	弥生終末期以降	福岡市教委	[2文献]参照	弥生終末期以降の井戸から出土。		
55	福岡	高三潴(たかみずま)	久留米市三潴町高三潴		2014	6.6	無文	僅かに有	無	無	弥生後期	久留米市教委	[2文献]参照	溝から出土。裾部中央に半円形の型持穴あり。		
56	佐賀	本行	鳥栖市江島町本行遺跡		1993	4.9 <6.0>	無文	無	無	無	弥生後期	鳥栖市教委	『青銅研』03	裾を馬鈴状に二次加工。朝鮮式系（型持孔を持たない）	１Ｂａ	

No	府県名	遺跡名	地　名	号	出土年	高さ(cm)	鐸身文様	鰭	内面突帯	舌	廃絶時期	所蔵・保管	出　典	備　考	松井分類	参　考
57	熊本	上日置女夫木	八代市上日置町（字女夫木）		2003	5.3	無文	無	有	銅 5.5		八代市立博物館	『列島2007』p.31 & p.81	小銅鐸出土例の南限。各面２個ずつの型持孔。弥生中期及び後期の土器片共伴。	１Ｂｂ	
58	大分	別府	宇佐市別府（字桜）		1977	11.80 <11.60>	朝鮮製小銅鐸。無文。	無	無	無	弥生後期	宇佐市教委（大分県立歴史博物館）	『銅鐸集成』p886	住居遺跡より出土。国内で最初に見つかった朝鮮式小銅鐸。	朝鮮式	
59	大分	多武尾	大分市横尾（字下組多武尾遺跡）		1981	5.5	無文	無			弥生後期	大分市教委（大分市歴史資料館）	『銅鐸集成』p889	北九州で製作か。破砕。大分市横尾字南城の辻多武尾(『富樫徳澤』)	１Ｂａ	

Ⅱ　小銅鐸かどうか不明確なもの

71	愛知	朝日	清須市朝日遺跡		1975	6.8+						貝殻山貝塚資料館	『島根埋文』p.126	鋳損じ品。筒形青銅製品。小銅鐸であるかどうか疑問がある。		

Ⅲ　存在が疑問視される小銅鐸

81	群馬	？	(伝)群馬県				？						『広がり』45	？		
82	神奈川	つきみ野西	大和市										『広がり』x2	存在は疑問		
83	静岡	原町	沼津市原町			＊	＊	＊					『富樫徳澤』29	表面採集		
84	奈良	唐古･鍵	磯城郡田原本町唐古･鍵遺跡		1977	7.5	無文					橿原考古研	『銅鐸集成』p888	この遺跡からは銅鐸鎔笵、鐸形土製品も出土。		
85	長崎	三根	対馬市峰町三根（上県郡峰町（峰村）三根 タカマツノダン）										『青銅研』01	舞部破片。増田精一調査。		
86	長崎	卯麦	対馬市豊玉町 卯麦（字クロキ）			2.8約						東博？	『青銅研』02	小銅鐸か。		
87	熊本	八ノ坪	熊本市護藤町		2004								『列島2006』	小銅鐸の石製鋳型破片が出土。小銅鐸ではない。		2004.4.27.熊本日々新聞